

# ニュースレター vol.3

## 会員の皆様へ

### 定時総会行われる

本会は本年6月、第3回定時総会を行い、母校理工学部における「科学技術と倫理」講座の持続的発展、HPの充実、講演会の企画などの活動を決定しました。

これらの活動を通して、会員相互の親睦、母校発展へ貢献、会員の技術能力開発など、本会の目標達成にさらに前進していきます。

### ホームページ（HP）の充実

本年1月、白門技術士会のHPを立ち上げ、7月末現在630名を超える方が訪問されています。

会の案内、会の活動、行事予定、あるいは関連リンク先案内、そして本レター掲載など、会員相互の技術・情報交換の場となっています。新たに準会員として迎える近い将来技術士補となる学生諸氏のための情報提供の場となるよう内容の充実に努めて行きたいと思っています。本HPに対するご意見、ご希望をお寄せ下さい。

URL：<http://hakumon-hp.infoseek.co.jp/>

## 七転び八起き

60歳で定年になった時、私は技術士の資格を必要としてくれる建設コンサルタント会社に移りました。勿論、会社も残って欲しいと言われましたが給料は今までの4割に減らされます。新会社では今までの8割の給料を保証してくれました。勿論それから10年も経った今では、はるかに安い給料ですが、技術士のお陰で未だに収入が入りますし、仕事の張りで老けるわけにも行きません。

私は34才から39才までの約6年間物凄く気の短い課長の下にいました。課長は電話をしても、何か気に障ると顔色がさっと変わり、周りの人は何か壊れ物を扱うように課長には当たり障り無いように過ぎてゆきました。しかし部下にしてみれば大変です。朝云った命令が、夕方には異なった命令に変更しており、さらに反発するものなら大変です。物凄い形相になって、部下の人格を全否定するくらい攻めます。ですから私たちはあわて

て変更をしました。しかし、頭は非常に切れる人だったので、会社もその人を開発部の課長にしておりました。私は主任として課長と部下の調整に何時も悩んでおりました。頭の中は課長との人間関係が9割、仕事のことは1割でした。ですから夜中の3時頃になると自然と目が覚めてしまい、そこで3時から技術士になる為の勉強を約1年間続けました。お陰で39才の時に技術士に合格できました。

何が幸いで何が不幸か、不遇と思われた時の勉強が技術士資格を取らせてくれました。ですから癩癩持ちの課長に恨むよりも感謝の気持ちが出てきます。また今では周りが良く見えるようになり、どんな人とも一期一会を大切にしよう、人間が多少なりとも大きくなった様な気がします。

(金川護：1960年工業化学科卒)

## 40年前にタイムスリップしてみると

そこには、菜っ葉服姿で実験装置のバルブ操作をしている自分がいるではないか。当時、車からの排気ガスに含まれる窒素酸化物が大気汚染の元凶といわれ、その除去装置についての「卒研」を行っている姿であった。元々化学が好きで、中学時代に大学の教科書で反応式を理解しようとしていた。しかし、工業化学科(現応用化学科)に入り、「有機電子論」を学ぶ頃から雲行きが怪しくなり始め、「電子がこうなって」「反応」という世界に入り、「これはダメだ」に至り、「ものを作る」ことが好きであったこともあり、「化学工学」を専攻し、前に述べたテーマに巡り会ったのであった。もう少しタイムスリップしてみましよう。

入学1年目の教養科目に「哲学」の試験会場(教室)です。問題用紙が配られています。自分の人生について思うことを述べよ」このような問題だったと思います。20歳前の私に書けるはずがありません。時間は過ぎていきます、解答用紙は白紙のままです。

高校時代に野球部に所属し、キャッチャーというポジションでした。ただ1人、ダイヤモンドの外に守備する特殊な「職」です。そうだ!「野球と人生は似ていないか」「その日の天候と風向き」「攻撃と守備」「打順と守備位置」「表と裏」等々考えていると、何か書けそうだと気づいたようです。

それからの彼は、筆が動き時間内にページを埋めることができたようです。

学生の皆さん!

皆さんが日々学んでいる全ての講義に一つの無駄もありません。皆さんの回りには、クラス仲間、研究室の教官・先輩・後輩、クラブの仲間、全ての方々から彼らの「生き方」を共に学んで下さい。

最後に、学生時代に「技術士補」試験に合格し、就職活動に「一歩前に」立てるよう、白門技術士会は皆さんを応援します。

(林知幸：1969年工業化学科卒)